

教育の方法・技術

第14講 「「教えないで学べる」という新たな学び」

久世 均(岐阜女子大学)

第14講 「「教えないで学べる」という新たな学び」

【目 的】

教師は、学習率を高めるために、学習に必要な時間を減らす工夫と、学習に費やされる時間を増やす工夫ができる。

J・B・キャロルの時間モデルに含まれている5つの変数は、教師として授業を工夫し、学習者一人ひとりが学習に費やす時間を確保し、また、学習に必要な時間を短縮していくための学修環境として考える。

【学修到達目標】

- 「教えないで学べる」とはどのようなことか具体例を挙げて説明できる。
- 「教えないで学べる」という新たな学びの設計ができる。

第14講 「「教えないで学べる」という新たな学び」

1. J・B・キャロル（Carroll）の学校学習の時間モデル

$$\text{学習率} = \frac{\text{学習に費やされた時間} \\ \text{Time Spent}}{\text{学習に必要な時間} \\ \text{Time Needed}}$$

図14-1 J・B・キャロルの学校学習の時間モデル（1）

第14講 「「教えないで学べる」という新たな学び」

1. J・B・キャロル（Carroll）の学校学習の時間モデル

$$\text{学習率} = \frac{\text{学習機会} \times \text{学習持続力}}{\text{課題への適性} \times \text{授業の質} \times \text{授業理解力}}$$

図14-2 J・B・キャロルの学校学習の時間モデル (2)

第14講 「「教えないで学べる」という新たな学び」

1. J・B・キャロル（Carroll）の学校学習の時間モデル

- 「インストラクショナルデザイン」や「教えないで学べる」学修環境は、キャロルの学校学習の時間モデルの授業の質を高め、授業理解力を助け、学修機会や学修持続力を高めるための手法であり、学習環境でもある。
- 「教えないで学べる」ためには、これらの手法や環境を整備することによって実現するものであり、学習者の学ぶ意欲を促し、自律的に継続して学ぶ力をつけていくことが重要である。

第14講 「「教えないで学べる」という新たな学び」

2. 「教えないで学べる」学習環境

- ① クラウドコンピューティング
 - ② 電子書籍（デジタル教科書）
 - ③ フィールドワーク
 - ④ e-ラーニング
 - ⑤ eポートフォリオ
 - ⑥ ラーニング・コモンズ
-

課題

1. J・B・キャロル（Carroll）の学校学習の時間モデルについて説明しなさい。
2. 「教えないで学べる」学習環境について具体的に説明しなさい。
3. 「教えないで学べる」研修を実現するための手立てを考えなさい。

第14講 「「教えないで学べる」という新たな学び」

【目 的】

教師は、学習率を高めるために、学習に必要な時間を減らす工夫と、学習に費やされる時間を増やす工夫ができる。

J・B・キャロルの時間モデルに含まれている5つの変数は、教師として授業を工夫し、学習者一人ひとりが学習に費やす時間を確保し、また、学習に必要な時間を短縮していくための学修環境として考える。

【学修到達目標】

- 「教えないで学べる」とはどのようなことか具体例を挙げて説明できる。
- 「教えないで学べる」という新たな学びの設計ができる。

教育の方法・技術

第14講 「「教えないで学べる」という新たな学び」

久世 均(岐阜女子大学)